



◆岩永 義仁 議員

オンライン肉まつりは

町長 通販サイトへのアクセス増

これまで養老公園にて開催してきた「肉まつり」だが、コロナ禍のためインターネット上で開催されることとなった。

問 事業予算は2200万円です。IT活用によるイベントにも係わらず、通常開催の肉まつりよりも多額となった。インターネット上での販売数は全店舗合計で250個、100万円ほどの売り上げとなった。事業評価は。

答 食肉の消費拡大とコロナ後の来町者を増やすことがこの事業の目的であり、大変効果があった。

問 タレント側に800万円が支払われた。何かと「お金がない」と言っている養老町の支出としては高すぎないか。

答 動画配信による町のPRの対価として妥当。

問 事業者への取材から、イベントを受注した関係者による購入があったとのこと。先着46名の送料を町が負担するという本事業において、関係者による購入は問題ではないか。

答 町は購入履歴等の個人情報収集していない。関係者による購入は把握していないが、食肉のPRとしての購入ならばイベントによる効果と考える。



オンライン肉まつりチラシ

町民プールの今後は

町長 売却も視野に幅広く検討

住民に親しまれた町民プールは6月末での一時休館が決まっている。施設の今後の活用方法について模索が続いている。

問 町民プールの存続を要望する署名嘆願活動が行われ、1500名を超える署名が集まったと聞いている。これだけ大きな民意に対して町はどう応えていくのか。

答 町営のプールとして再開することは困難と考える。一部の事業については他施設で開催できるように進めていく。施設の今後としては企業や民間への貸し出し、売却等、幅広い視野で検討していく。

問 会議録の調査を行った。町民プールの今後を議論した審議会は、閉館の方針と決めていた町職員による「特命チーム」が主導的役割を果たした。例えば存続の提案をしていた町教育当局からの出席はなく、公平性に欠ける否を議論であった。



6月末で休館した町民プール

たとえる。最初から閉鎖ありきだったのではないか。

答 審議会では特命チームの判断、アンケート結果、パブリックコメントの結果をもとに慎重審議を行った。公正な判断だったと考える。

学力低下対策に読書習慣を

教育長 保護者や家庭に一層の啓発



◆清水由美子 議員

タブレット学習が導入され、今後、文字離れ・学力低下も懸念される。学力向上と心豊かな生徒の育成に、日々の読書習慣を提言した。

問 タブレット端末使用の現状とデメリット対応は。

答 小学校では、毎日1〜2時間、中学校は週1〜3時間程度使用。調べ学習をはじめ多様な学びが可能になった。「ICT」と「非ICT」それぞれの良さを授業に組み合わせ、トラブルから子供を守る為「タブレット活用のルール」を全児童生徒に配布等で対応している。

問 紙での学習も大切だが見解は。

答 書くことは、非常に大切と認識している。「ICT」と「非ICT」とのバランスや使用時間を考慮した授業づくりに取り組む。

問 減少傾向にある読書時間の確保は。

答 乳幼児教育では、園や家庭において絵本の読み聞かせ等の読書指導を実施している。各学校では、読書習慣の啓発活動、家庭読書の積極的な取組など、読書指導・利用指導を行っている。ICT教育が進む中でも、園や学校と連携し、保護者や家庭に一層の啓発をし、読書生活の充実につなげていく。



仙台市「学習意欲の科学的研究フォーラム2017」より

小学校の今後は

教育長 慎重に取り組む

少子化が急速に進む中、「子供たちが安心して学び生活する環境」を考える。

問 少子化が進む中、小学校の統合は。

答 少子化が進む以上、学校の統廃合は検討していく必要があると認識している。子供たちや保護者、地域住民の思いを尊重し「地域とともにある学校」をめざし、存続するよう努める。

問 ワクチン接種の早期対応は。

答 国・県からの通知があり次第、関係機関と検討し、安心して接種できる体制。

問 インフルエンザ予防接種との併用は。

答 他の予防接種を行う場合、原則として13日以上間隔をおく。

問 タブレットの導入は。

答 タブレットの活用を習熟させ、生徒の活用能力を向上し学習内容や目的に応じてペンシル等の整備を進める。

問 教職員の優先接種は。

答 随時、優先的に、接種できるように予定。



導入されたタブレット端末